

学校研究全体計画

1 研究主題

令和2・3・4年度 小松市教育委員会指定 「授業改革推進事業」

聴いて反応し、主体的に学び表現できる生徒の育成

～学びを実感できるような授業づくりを目指して～

2 経緯と主題設定の理由

本校は、令和2年度より「授業改革推進事業」の指定を受け、研究主題を「聴いて反応し、主体的に学び表現できる生徒の育成」とし、副題を「学びを実感できるような授業づくりを目指して」として、研究を進めてきた。

現代は、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するような予測困難な時代を迎えている。その中でも「文章や情報を正確に読み解き対話する力」、「様々な分野においてAIやデータの力を最大限活用し展開できる力」等が求められている。そこで、膨大な情報から必要なものを精査し、自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて考えを伝え合ったりする活動を充実させる必要がある。そのためには、与えられた情報を受け取るだけの受け身の状態でなく、与えられた情報を基に自分の考えを想起し、新たな情報と関連付けて考えていくことが望ましい。すなわち、今の時代を生きる子どもたちに必要なのは、聴いて理解したことを主体的に考え、自らの学びを広げることである。そして、その学びを自発的に他者に広げ深めたいという思いをもち、発信していくことが大切である。

このような現状から、昨年度は特に「聴く」という視点に着目し、授業の中で生徒に聴く力を身につけさせるために、特定の教科のみならず、全教職員で共通認識を持ち、工夫を凝らしながら実践を進めてきた。聴くことの大切さを常に生徒に投げかけたり、生徒同士で相談できるような環境を意図的に設置したりしたことで、自然と聴き合ったり教え合ったりする姿が見られるようになってきた。また、効果的にICTを活用したことで、教師や発表者が話す場面においては、顔を上げて聴いたり、その内容に積極的に反応したりするなど、聴き手の意識に変化が見られた。しかし、課題解決の場面においては、解くことに没頭してしまい、友達の考えを聴くことが疎かになっている生徒の姿も多々見られたという課題も残る。

以上のことから、今年度も昨年度に引き続き、生徒が学びを実感できるような授業づくりを軸として研究を推進していきたいと考え、上記の研究主題を設定した。また、授業づくりの視点として以下の3点を設定して取組を進めていくことにした。

【授業づくりの視点】

①主体的に学びたくなるような授業

- ・ 生徒の興味・関心を喚起するような課題設定
- ・ 課題意識を持続させるコーディネート工夫

②聴いて考え、自己表現したくなる授業

- ・ 丸中学びの心構えに基づき、「聴く」「話す」姿勢を定着させる
- ・ 状況、場面に応じて学び合いの場を設定する
- ・ ICTを効果的に活用し、主体的に自己表現できる場を設定する

③自己の学習を振り返り、学びを実感できる授業

- ・ 単元等のまとまりを見通した指導を計画し、次時につなげる
- ・ 学習したことを用いて振り返りを行うことで、学びの自覚化を促す

3 研究方針

(1) A 授業改革チーム

- ・ 丸中スタイルの確立
 - 授業づくりにおける教科目標の設定
 - 丸内中授業づくりの視点に沿った50分の持ち方の再考
 - コーディネートの仕方の検討（発問等）
- ・ 単元を見通した授業づくり（単元見通し学習）の工夫
- ・ ICTを効果的に用いた授業づくりの工夫
- ・ 授業スキルシートの作成
- ・ 振り返りシートについて
- ・ 生徒アンケートの分析と対策
- ・ スキルタイムの実施について

(2) B 集団づくりチーム

- ・ 丸中学びの心構えの再考
 - 「聴く」「話す」姿勢の定着
- ・ 生徒会やリーダー会との連携
- ・ 道徳・特別活動等との連携

(3) C 学力向上推進チーム

- ・ 家庭学習指導の工夫
 - 自学ノートの質の向上のための取組
 - 家庭学習の定着に向けた取組
 - まなびくんの取組
 - テスト勉強指導の充実
- ・ 学習アンケートの提案・実施・分析（PDCAサイクル）
- ・ テスト（学力調査）の分析の提案
- ・ 朝学習の取組の充実

4 研究組織

教職員全員が協力体制のもと、研究を推進する。

